

オトガイ下リンパ節腫脹が主訴であった トキソプラズマ症の1例

中田 誠一 中島 務

名古屋大学大学院頭頸部・感覚器外科学講座耳鼻咽喉科

【はじめに】 トキソプラズマ症とは、トキソプラズマという原虫による感染症である。今回、我々はオトガイ下リンパ節腫脹を主訴として来院し病理・血液検査で確定しえたトキソプラズマ症を経験したのでここに報告する。

【症例の経過】 52歳、男性。今年2月下旬よりオトガイ下、左頸部にリンパ節腫脹し近医受診した。徐々にリンパ節の圧痛も出現し抗生剤を服用させるも改善しないので近医よりの紹介にて当院当科に3月4日受診した。ファイバー下にて咽喉頭に異常なく頸部MRI所見にては内深頸、オトガイ下に1-2cmの軽度腫大した比較的均一な信号のリンパ節を複数みとめた。他頸部領域に腫瘍性の病変はなかった。猫にひっかかれた経験はなく、梅毒・AIDSなども血液検査から否定された。よって4月下旬に局所麻酔下にてリンパ節生検施行。術中迅速診断にては悪性リンパ腫の診断であった。しかし永久標本病理にて、反応性リンパ濾胞の形成を背景に、濾胞間領域に小型の肉芽腫形成と monocytoid cells を認めトキソプラズマ症と最終診断された。血液検査にてトキソプラズマ抗体を調べるに高値を認め病理診断を裏付けることとなった。脈絡網膜炎や頭部CTに異常なく免疫学的に正常な患者であるので、抗菌薬は使わず現在経過観察中である。

【まとめ】 時に、頸部リンパ節腫脹を主訴にトキソプラズマ症が有り得るので注意が肝要である。